



↑重機とスコップで地面を覆



↑汚れていた洗い場もきれい

# 新芽鮮やか 樹齢30年 尾黒さん夫婦（藤塚）

## 日進の木・キンモクセイ物語

日進おりど病院から西に進んだ藤塚の住宅街に、大きなキンモクセイの木を見つけた。2階建ての自宅と並ぶ樹高6メートルの立派な庭木。黄緑色の新芽が芽吹く鮮やかさがとても印象的だ。

インターホンを押すと、尾黒武次さん、和子さん夫婦が笑顔で迎えてくれた。「この木は家を建てた時に植えたので、樹齢は30年ぐらいです。まさか日進市の木だったとは知りませんでした」

キンモクセイの甘い香りが好きという和子さんが植えた。他にも柿・梅・ゆず・みかんなど実がなる木を育てている。以前は春に花が咲くジンチョウゲもあり、爽やかな香りを楽しんでいた。「まるで木と同居しているような感覚です。キンモクセイは子どもたちの成長より早く、あつという間に伸びました」と振り返る。

70代の夫婦の楽しみは旅行。山好きの娘家族と一緒に信州の温泉

宿に出掛けるほか、お盆には武次さんの実家、栃木県日光市に帰省する。

その場所は日光東照宮御用達の割烹「恵比寿家」という老舗で、元祖日光ゆば料理を味わえる。

「昔ながらの田舎の家ですが、日進の皆さまにも機会がありましたらお出掛けいただきたいです」。

夫婦は仕事先の名古屋で知り合い結婚した。家を建てる頃の藤塚はまだ山だったが、この地での生活に満足している。「日進は静かで、子育てするのに住みやすいま

ちになりました。緑が多いことにも良さを感じます。住宅地の緑も推奨してほしい」。

5月には、シルバー人

同小での会の活動は今回が3度目。結成した年は錆びて汚れていた正門の鉄製扉を塗装し、2年目には正門脇の大きな木を切り、その根で傷んだ側溝を改修した。山田校長は「た

材センターの作業員が剪定に訪れる。二人はキンモクセイを見上げて願いを語った。「いつもきれいな形に仕上げてくださいたいです。今年もいい匂いが楽しみです。手入れをしながら、この木を家族のように育てていきたいです」（広）



↑太い幹から何本にも枝分かれています



↑キンモクセイを紹介する尾黒さん夫婦

# 笑顔

そして、未来へ

幾波幸代さん、京子さん、将一さん、志帆ちゃん、正治さん

最近、奈良県から引っ越してきました。自然いっぱい落ち着いたまちですね。両親と一緒に北高上緑地を訪れました。新天地で子育てに奮闘中です。



だ感謝です。休日なのに皆さんよくやっていたら、学校が地域に支えられ愛されていると感じます。ありがたいことです」と感激の様子だった。